

患者さんの立場に立って、患者さんに寄り添った診療を行う

耳鼻咽喉科医局に在籍し、耳鼻咽喉科領域の一般的な疾患の診断・治療からさまざまなかなりの手術を多く行つてきました。特に、耳鼻咽喉科専門医の資格を取得してからは、「めまい・平衡領域」という分野を専門とし、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎などに対する「中耳」の手術手技の研鑽を積みながら、めまい外来でメニエール病や良性発作性頭位めまい症、急性感音難聴などの治療に取り組んできました。

風邪や中耳炎、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎などの一般的な疾患から、難聴やめまいなどの専門的治療まで幅広く対応

—どのような患者さんが来院されますか？

0歳児から90歳以上の方まで、幅広い年齢の患者さんが受診されています。

風邪や中耳炎、花粉症などのアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃炎など、耳、鼻、のどの一般的な病気だけでなく、専門的な検査や治療が必要な難聴やめまい（平衡機能検査）、補聴器の相談、睡眠中のいびき、無呼吸を気にされて、「睡眠時無呼吸症」の障害）、補聴器の相談、睡眠中のいびき、50代の働く世代では、低い周波数の音が聴こえにくくなる内耳性の難聴（急性低音障害型感音難聴）の患者さんが多いです。また、コロナ禍のテレワークによって、イヤホンの使用が増えたことで、外耳炎や外耳湿疹、カビが生えてしまう外耳道

についても、外耳や中耳にできる「真珠腫」のように進行し悪化すると手術が必要になる病気や、再発しやすい「急性低音障

0歳児から90歳以上の方まで、幅広い年齢の患者さんが受診されています。

風邪や中耳炎、花粉症などのアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃炎など、耳、鼻、のどの一般的な病気だけでなく、専門的な検査や治療が必要な難聴やめまい（平衡機能検査）、補聴器の相談、睡眠中のいびき、無呼吸を気にされて、「睡眠時無呼吸症」の障害）、補聴器の相談、睡眠中のいびき、50代の働く世代では、低い周波数の音が聴こえにくくなる内耳性の難聴（急性低音障害型感音難聴）の患者さんが多いです。また、コロナ禍のテレワークによって、イヤホンの使用が増えたことで、外耳炎や外耳湿疹、カビが生えてしまう外耳道

についても、外耳や中耳にできる「真珠腫」のように進行し悪化すると手術が必要になる病気や、再発しやすい「急性低音障

耳鼻咽喉科医局に在籍し、耳鼻咽喉科領域の一般的な疾患の診断・治療からさまざまなかなりの手術を多く行つてきました。特に、耳鼻咽喉科専門医の資格を取得してからは、「めまい・平衡領域」という分野を専門とし、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎などに対する「中耳」の手術手技の研鑽を積みながら、めまい外来でメニエール病や良性発作性頭位めまい症、急性感音難聴などの治療に取り組んできました。

—どのような患者さんが来院されますか？

0歳児から90歳以上の方まで、幅広い年齢の患者さんが受診されています。

風邪や中耳炎、花粉症などのアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃炎など、耳、鼻、のどの一般的な病気だけでなく、専門的な検査や治療が必要な難聴やめまい（平衡機能検査）、補聴器の相談、睡眠中のいびき、無呼吸を気にされて、「睡眠時無呼吸症」の障害）、補聴器の相談、睡眠中のいびき、50代の働く世代では、低い周波数の音が聴こえにくくなる内耳性の難聴（急性低音障害型感音難聴）の患者さんが多いです。また、コロナ禍のテレワークによって、イヤホンの使用が増えたことで、外耳炎や外耳湿疹、カビが生えてしまう外耳道

についても、外耳や中耳にできる「真珠腫」のように進行し悪化すると手術が必要になる病気や、再発しやすい「急性低音障

耳鼻咽喉科
ちかざわ耳鼻咽喉科クリニック 院長
ちかざわさとし
近澤 仁志

〒182-0002 東京都調布市仙川町2-12-6 アヴェニール仙川1-A

診療時間：9時～12時30分、15時～18時30分

※土曜日は9時～13時

休診日：木曜・土曜午後・日曜・祝日 ☎: 03-3326-3387

インタビュー記事は
こちらでも読めます！



MESSAGE

いま通院されている若い患者さんが、やがてお子さんを連れて来院されるような、ご家族何代にもわたってかかりつけ医になれるような存在になりたい、というのが私の今の願いです。そのくらい地域に根づくことができれば、開業医冥利に尽きますね。「こんな程度の症状で病院に行っていいのか」と受診をためらわず、ちょっとしたことでも遠慮せず気軽に受診してください。スタッフ一同お待ちしています。

—はじめに、医師を志したきっかけを教えてください。
子どもの頃から絵を描いたりデザインをしたりするのが大好きで「将来は建築家になりたいな」と思っていました。ところが、高校に進学したとたんあまり勉強しなくなってしまった…。特に、高校3年生の時は「大学に落ちたらみんなで予備校に行こう」という雰囲気で、親も呆れるくらい寝てばかりいて（笑）、案の定浪人し予備校に通うことになりました。

でも、そうなったことで自分の進路を見直す余裕ができたんです。建築家にこだわらず「人と接して、そして、役に立つ仕事がしたい」と真剣に考えようになり、その時に浮かんできたのが祖父の姿でした。私の祖父は耳鼻咽喉科の開業医で、子どもはそのままに「人と接して、なおかつ、その人の役に立つ仕事」です。祖父の働く姿を間近で見てきて医師という職業に馴染みがあつたこともあり、医師になることを決意しました。

—開業までの経緯や、耳鼻咽喉科を専攻にした理由を教えてください。

耳鼻咽喉科が対象とする耳、鼻、のどは、体の中でもとても複雑で繊細な部位なので、治療においても繊細な処置が多く、特に手術では精緻な手術手技が求められます。それは、私が当初を目指していた設計・デザインの世界と通じるものがあるなど感じたのです。

また、子どもが好きで小児科医を考えた時期もあり、小さなお子さんを診ることも多

い耳鼻咽喉科は自分に合っていると思いました。しかも、私が入学した慈恵会医科大学

学は、日本の耳鼻咽喉科の発祥の地で、歴史と伝統があります。慈恵会医科大学の「慈

(じ)」は、耳鼻科の「耳(じ)」と言われ

るくらい学内でも活気のある科目で、若い先生が中心となつて、臨床に研究に活発に取り組まれているのを見て魅力を感じたこ

とも耳鼻咽喉科を専門とする決め手になりましたね。



明るく広々とした待合室。院内はバリアフリーで、授乳室も設置しており、小さなお子さん連れの方も安心して通院できます。



大学病院で培ってきた高度医療の知識と経験を地域に還元し、貢献したいと開業を決意